

栄町史調査報告書第2集

千葉県印旛郡栄町寺院棟札集成

栄町史編さん委員会

平成六年三月

栄町史調査報告書第2集

千葉県印旛郡栄町寺院棟札集成

栄町史編さん委員会

序

町内には、四〇を超える寺院、庵、寮があります。これらはどれも時代の風雪に耐え、星霜を重ねて現在に至っているものです。その意味では、日常何気なく見たり使用したりしているこれら建物も、見方を変えれば立派な文化遺産であるのです。

今回は、先人達が造り護ってきたこの文化遺産を再認識し、町史編さん事業の一環として行っている文化財・社寺悉皆調査の中で得られた史料の中から、寺院の建造に関わる棟札、銘文、墨書などを集大成し、寺院棟札集成として、刊行するもので平成四年三月に教育委員会より刊行された『千葉県印旛郡栄町神社棟札集成』との二部作となるものです。

本書の刊行が、今まで明らかにされなかった寺院の歴史の解明の手掛かりとなり、また広く文化財保護思想の啓発、普及に役立てば幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり精力的に調査、編集作業を進めて頂いた栄町史編さん委員会文化財・社寺部会編集委員山田和夫氏、調査研究員植野英夫氏、芝野悦子氏、谷口裕恵氏、また多大なるご協力を賜りました栄町史編さん委員会委員、栄町文化財審議会委員の方々並びに各寺院の御住職・役員・壇家の皆様方に厚く御礼申し上げます。

平成六年三月

栄町長 藤江 恭

例 三〇

一 本書は、栄町史調査報告書第2集として、千葉県印旛郡栄町内の寺院・仏堂・庵等に現存する棟札の調査記録をまとめたもので、栄町史編さん委員会が刊行するものである。

二 本書で扱った史料は、本堂内に保存されていた棟札・銘札が主である。他に寺院・仏堂の造替に関する史料として、建物の部材墨書銘、額銘、石造物銘、文献史料等も取り上げた。

三 本書は、表を含む考察・史料編と、写真を含む銘文編、写真からなる栄町江戸以前寺院棟札写真編で構成される。翻刻した棟札と寺院・仏堂には通し番号を付けた。

四 本文の寸法は、尺貫法を使用した。

五 本文の執筆は、考察編の第一章第一節及び第二章を山田和夫、第一章第二節及び第三章を植野英夫が担当し、銘文編は山田和夫・植野英夫・芝野悦子が共同であたった。

六 写真及び本書の編集は、栄町史編さん室があたった。町史編さん室室長（事務取扱） 助役 喜多見 明

次長 馬場 正実
係長 荒井 信司
主任主事 丸 彦衛
主事補 大竹 陽子

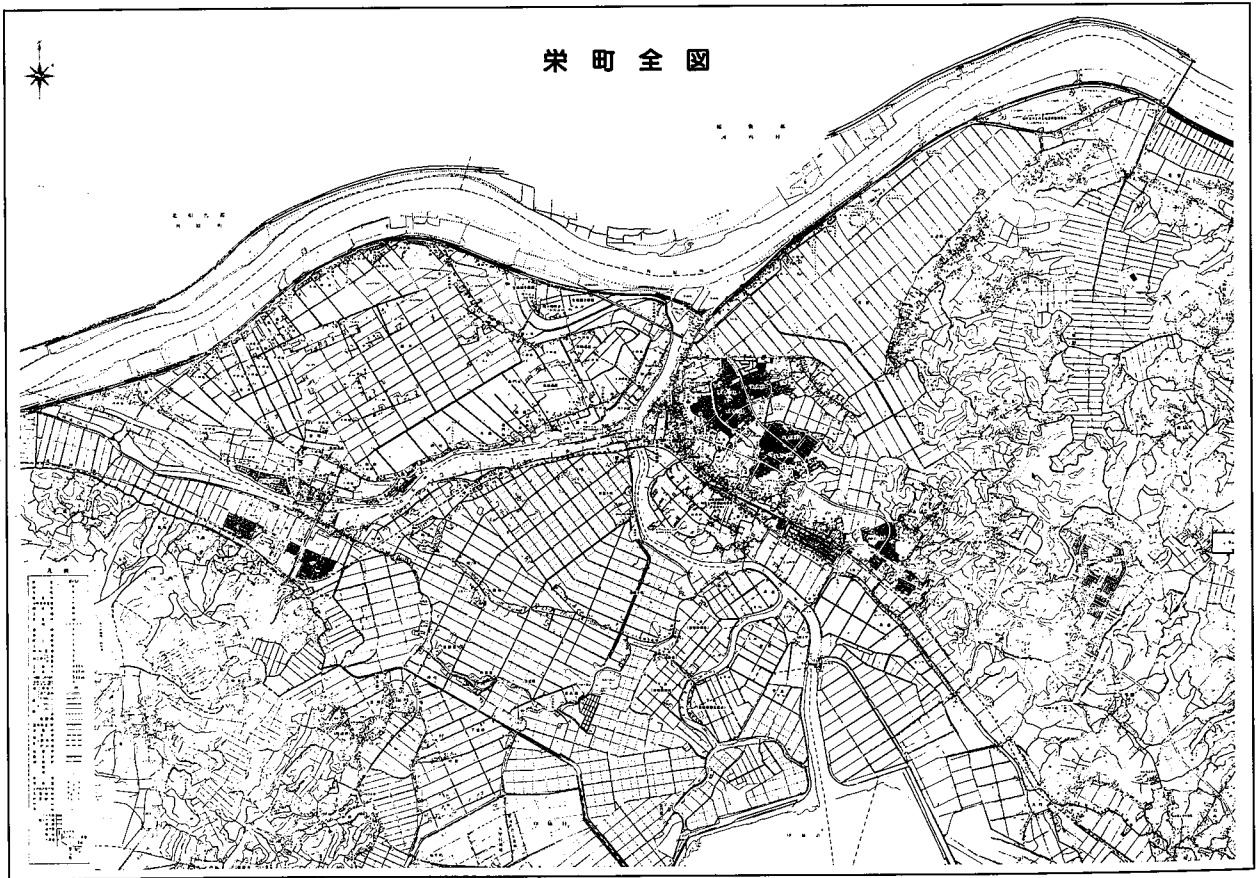


図1 栄町管内図

栄田図

図2 寺院分布図



旧安食村

- 1 正徳寺 (辺引)
- 2 大乘寺 (鶯町)
- 23 弥陀堂 (辺引)
- 19 地藏堂 (鶯町)
- 20 念仏堂 (上町)
- 21 大日堂 (三区)
- 22 不動堂 (三区)
- 24 観音堂 (三区)
- 25 御堂 (三区)

旧北辺田村

- 8 蓮常寺
- 9 西之庵

旧須賀村

- 10 宝寿院
- 26 不動堂

旧酒直村

- 3 多宝院

旧龍角寺村

- 4 龍角寺

旧矢口村

- 11 長見寺
- 27 釈迦堂
(現在地不明)
- 29 三昧堂
- 28 地藏堂
- 30 大日堂
- 31 子安堂
- 32 不動堂

旧麻生村

- 5 東光院

旧興津村

- 6 龍昌院
- 7 智性院

旧布鎌新田

- 12 慈眼庵 (西)
- 13 常福寺 (布太)
- 14 雙林寺 (布太)
- 15 善勝庵 (押付)
- 16 浄正寺 (和田)
- 17 可存庵 (請方)
- 36 黄鏡庵 (請方)
- 44 円福寺 (請方)
- 18 福聚庵 (南)
- 33 山中庵 (三和)
- 34 酒直庵 (布鎌酒直)
- 41 四ツ谷庵 (布鎌酒直)
- 35 寮 (曾根)
- 37 押砂寮 (北)
- 38 寮 (北)
- 42 横須賀庵 (北)
- 43 御茶堂 (北)
- 39 中谷寺 (中谷)
(現在地不明)
- 40 清涼庵 (中谷)

考察・資料編

- 第一章 米町の寺院の棟札
- 第一節 概説
- 第二節 寺院一覽
- 第二章 寺院の造営に関わった工匠
- 第三章 文献資料

銘文編

安食地区

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------|-------------------------|-------------------|--------------------|---------------|------------------|----------------|----------------|---------------------|------------|-------------|-------------|--------------|-------------|--------------|---------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|--------------|---------------|-----------------|-----------|
| 1 旧安食村 | 1 正徳寺 | 2 大乘寺 | 3 大乘寺境外堂 | 4 大乘寺境外堂 | 5 大乘寺境外堂 | 6 大乘寺境外堂 | 7 大乘寺境外堂 | 8 大乘寺境外堂 | 9 多宝院 | 10 多宝院 | 11 多宝院 | 12 多宝院 | 13 多宝院境内堂 | 14 多宝院境内堂 | 15 多宝院境内堂 | 16 多宝院境内堂 | 17 多宝院境内堂 | 18 多宝院境内堂 | 19 多宝院境内堂 | 20 龍角寺旧本堂 | 21 東光院 | 22 東光院 | 23 東光院 | 24 東光院境内堂 | 25 東光院 | 26 日枝神社境内堂 | 27 龍昌院 | 28 龍昌院 | 29 龍昌院 | 30 龍昌院 | 31 龍昌院 | 32 龍昌院 | 33 龍昌院 | 34 龍昌院 | 35 龍昌院 | 36 龍昌院境外堂 | 37 龍昌院境外堂 | 38 龍昌院境外堂 |
| 本堂増改築寄進者芳名銘札 | 本堂増改築寄進者芳名銘札 | 本堂落慶銘板 | 地藏尊屋根替再建棟札 | 地藏堂再建棟札 | 地藏堂造立棟札 | 田中不動尊家根替銘札 | 田中不動尊増改築寄附芳名銘札 | 田中不動尊改築寄附銘札 | 本堂勸進復興建設棟札 | 本堂上棟棟札 | 本堂建設棟札 | 本堂並庫裡建立寄附芳名銘札 | 素羽鷹大明神本地十一面觀世音菩薩御堂新再建棟札 | 本尊十一面觀世音菩薩御堂家根替棟札 | 素羽鷹山十一面觀世音菩薩御堂修補棟札 | 護摩壇修覆疊替寄附連名銘札 | 子安如意輪觀世音菩薩御堂修補棟札 | 如意輪觀世音菩薩御堂再建棟札 | 如意輪觀世音菩薩御堂再建棟札 | 藥師如来開帳扉供養并本堂營繕寄附連名額 | 東光院新再興棟札 | 東光院改築理由銘札 | 扁額裏面墨書 | 觀音堂弘法大師堂造立棟札 | 不詳建物上棟銘札 | 子安本尊新築寄附芳名銘札 | 本堂須弥壇背面板戸墨書 | 龍昌院山号額墨書 | 本堂須弥壇墨書 | 本堂須弥壇墨書 | 本堂修繕寄附芳名銘札 | 龍昌院屋根修繕寄附銘札 | 本堂欄間用板寄附銘札 | 本堂寄附銘札 | 地藏堂屋根替寄附連名銘札 | 地藏堂屋根替寄附者芳名銘札 | 子育地藏堂改築費寄附者芳名銘札 | |
| 昭和五一年(一九七六) | 昭和五一年(一九七六) | 昭和四六年(一九七一) | 慶応三年(一八六七) | 明治一七年(一八八四) | 昭和五三年(一九七八) | 昭和五五年(一九八〇) | 昭和二三年(一九四八) | 昭和三六年(一九六一) | 昭和六一年(一九八六) | 昭和六一年(一九八六) | 昭和六二年(一九八七) | 昭和六二年(一九八七) | 明治四三年(一九一〇) | 明治四三年(一九一〇) | 明治四三年(一九一〇) | 明治二九年(一九〇六) | 昭和二二年(一九四七) | 昭和五四年(一九七九) | 明治四一年(一九〇八) | 寛文一二年(一六七二) | 延宝六年(一六七八) | 明治四五年(一九一二) | 昭和六一年(一九八六) | 安永四年(一七七五) | 昭和五六年(一九八一) | 正徳三年(一七二三) | 寛延年間(一七四八、五一) | 文化五年(一八〇八) | 明治三八年(一九〇六) | 明治三九年(一九〇六) | 明治四三年(一九一〇) | 昭和五〇年(一九七五) | 年欠 | 明治三六年(一九〇三) | 昭和三年(一九二八) | 昭和四六年(一九七一) | | |

39 智性院境内堂 観音堂護摩壇墨書

明和二年(一七六五)

六 旧北辺田村

40 蓮 常 寺 本堂大宮繕寄附芳名銘札

昭和二四年(一九四九)

41 蓮 常 寺 本堂再建寄附芳名銘札

年欠

42 蓮 常 寺 本堂再建寄附芳名銘札

年欠

43 蓮 常 寺境内堂 鬼子母神堂厨子墨書 享保二年(一七

四六)・明和三年(一七七六)

44 蓮 常 寺境内堂 鬼子母神堂向拜木鼻刻銘

年欠

45 西 寺 奉納西寺地藏尊改修人夫銘札

昭和八年(一九三三)

46 西 寺 西寺保存寄附芳名銘札

昭和六三年(一九八八)

47 西 寺境内堂 大師堂子安堂修繕寄附芳名銘札

昭和一〇年(一九三五)

七 旧須賀村

48 宝 寿 院 本堂欄間彫刻墨書

年欠

49 宝 寿 院 本堂須弥壇腰壁横棧墨書

年欠

50 宝 寿 院 本堂須弥壇腰壁横棧墨書

明治二八年(一八九五)

51 宝 寿 院 宝寿院屋根改修寄附芳名銘札

昭和三〇年(一九五五)

52 宝 寿 院 本堂屋根普請寄附者御芳名銘札

昭和四一年(一九六六)

53 宝 寿 院 本堂屋根改葺工事寄附金芳名銘札

昭和四八年(一九七三)

54 宝 寿 院 本堂屋根改葺記念石碑

昭和五一年(一九七六)

55 宝 寿 院境内堂 虚空蔵堂須弥壇束柱墨書

年欠

56 宝 寿 院境内堂 虚空蔵堂旧護摩壇墨書

寛延四年(一七五一)

57 宝 寿 院境内堂 平忠盛と油坊主見立図絵馬裏面墨書

天保四年(一八三三)

58 宝 寿 院境内堂 虚空蔵堂改葺棟札

大正一二年(一九二三)

59 宝 寿 院境内堂 虚空蔵堂改葺記念石碑

大正一二年(一九二三)

60 宝 寿 院境内堂 虚空蔵堂屋根其他改修工事寄附者御芳名

銘札 昭和五二年(一九七七)

61 宝 寿 院境内堂 虚空蔵堂屋根改葺落成記念石碑

昭和五四年(一九七九)

62 宝 寿 院境内堂 虚空蔵堂安置牛頭天王神輿新造立棟札

天保九年(一八三八)

63 宝 寿 院境内堂 大師堂修繕寄附連名銘札

昭和四四年(一九六九)

64 宝 寿 院境内堂 権現社地藏堂改修寄附芳名銘札

昭和三六年(一九六一)

65 宝 寿 院境内堂 不動堂新築寄附者芳名銘札

昭和四六年(一九七一)

八 旧矢口村

66 子 安 堂 下舟戸子安宮建立銘札

昭和三五年(一九六〇)

67 子 安 堂 下舟戸子安宮修理銘札

昭和五二年(一九七七)

布鎌地区

一 旧布鎌新田

68 雙 林 寺 (布太) 雙林寺本堂台輪墨書

明治三八年(一九〇五)

69 雙 林 寺 (布太) 本堂屋根修繕寄附銘札

昭和二六年(一九五一)

70 雙 林 寺 (布太) 本堂修繕寄進者芳名銘札

昭和三〇年(一九五五)

71 雙 林 寺 (布太) 本堂修繕寄進者芳名銘札

昭和三二年(一九五七)

72 雙 林 寺 (布太) 本堂修繕手伝人夫芳名銘札

昭和三二年(一九五七)

73 雙 林 寺 (布太) 本堂内部修繕寄進者芳名銘札

昭和三六年(一九六一)

74 雙 林 寺 (布太) 本堂屋根修繕寄附者芳名銘札

昭和三九年(一九六四)

75 雙 林 寺 (布太) 本堂屋根修繕手伝人夫芳名銘札

昭和三九年(一九六四)

76 雙 林 寺 (布太) 本堂屋根修繕寄附者芳名銘札

昭和四二年(一九六七)

77 雙 林 寺 (布太) 本堂屋根修繕手伝人夫芳名銘札

昭和四二年(一九六七)

78 雙 林 寺 (布太) 本堂屋根改修工事寄附者芳名銘札

昭和五〇年(一九七五)

79 雙 林 寺 (布太) 本堂階段・建具等設置銘札

昭和五〇年(一九七五)

80 雙 林 寺 (布太) 本堂建具・階段設置銘札

昭和六〇年(一九八五)

81 雙 林 寺 (布太) 本堂雨戸サッシ等設置銘札

昭和六二年(一九八七)

82 雙 林 寺 (布太) 本堂雨戸サッシ・廊下修繕・建具

設置銘札 年欠

83 雙 林 寺 (布太) 本堂屋根改修工事銘札

年欠

84 雙 林 寺境内堂 大師堂寄附連名石碑

明治九年(一八七六)

85 雙 林 寺境内堂 八十八番大師堂刻銘

年欠

- 86 雙林寺境内堂 八十八番大師堂屋根修繕銘札
(布太) 大正一四年(一九二五)
- 87 雙林寺境内堂 八十八番大師堂屋根修繕銘札
(布太) 昭和二十七年(一九五二)
- 88 浄正寺(四箇) 精舎再建立棟札
宝曆七年(一七五七)
- 89 浄正寺(四箇) 本堂須弥壇墨書
明和七年(一七六六)
- 90 浄正寺(四箇) 本堂須弥壇擬宝珠金具刻銘
文久二年(一八六二)
〔参考銘文〕
本堂内保存厨子墨書
元禄一五年(一七〇二)
- 91 浄正寺(四箇) 本堂修理棟札
昭和四三年(一九六八)
- 92 浄正寺(四箇) 本堂改修工事寄附連名銘札
昭和四三年(一九六八)
- 93 浄正寺(四箇) 山門改修棟札
昭和四三年(一九六八)
- 94 可存寺境内堂 十九番大師堂厨子墨書
(請方) 天保七年(一八三六)
- 95 可存寺境内堂 十九番大師堂刻銘
(請方) 年欠
- 96 可存寺境内堂 十九番大師堂修繕寄附連名石碑
(請方) 明治四五年(一九一二)
- 43 蓮常寺鬼子母神堂厨子墨書
- 48 宝寿院本堂欄間彫刻墨書
- 49 宝寿院本堂須弥壇腰壁横棧墨書
- 55 宝寿院虚空藏堂須弥壇束柱墨書
- 56 宝寿院虚空藏堂旧護摩壇墨書
- 57 宝寿院虚空藏堂平忠盛と油坊主見立図絵馬墨書
- 62 宝寿院虚空藏堂安置牛頭天王神輿造立棟札
- 88 浄正寺本堂精舎再建立棟札
- 89 浄正寺本堂須弥壇墨書
- 90 浄正寺本堂須弥壇擬宝珠金具刻銘
- 94 可存寺十九番大師堂厨子墨書
- 101 福聚庵須弥壇腰板墨書

- 97 可存寺境内堂 十九番大師堂修復資金贊助者芳名銘札
(請方) 昭和五八年(一九八三)
- 98 可存寺境内堂 十九番大師堂改修記念石碑
(請方) 昭和五八年(一九八三)
- 99 可存寺境内堂 十九番大師堂改築工事寄附名簿銘札
(請方) 年欠
- 100 可存寺境内堂 延命地藏尊御堂百人講中連名四面石碑
(請方) 明治七年(一八七四)
- 101 福聚庵(南) 須弥壇腰板墨書
安永三年(一七七四)
- 102 北新田庵(北) 改築寄附者銘札
昭和三六年(一九六一)
- 103 曾根庵(曾根) 庵新築寄附者芳名銘札
昭和三二年(一九五七)

栄町江戸以前寺院棟札写真

- 3 大乘寺地藏尊屋根替再建棟札
- 13 多宝院素羽鷹大明神本地十一面觀世音菩薩御堂新再建棟札
- 21 東光院本堂新再興棟札
- 24 東光院觀音堂弘法大師堂造立棟札
- 25 東光院不詳建物上棟銘札
- 27 龍昌院本堂須弥壇背面板戸墨書
- 28 龍昌院本堂山号額墨書
- 29 龍昌院本堂須弥壇墨書
- 39 智性院觀音堂護摩壇墨書

考
察
・
資
料
編

第一章 栄町の寺院の棟札

第一節 概 説

今回の寺院棟札集成は、町史編纂にともなう町内に所在する社寺の文化財総合調査の成果の一部で、寺院が所蔵する棟札等の銘文を集成したものである。

神社については栄町教育委員会による棟札調査が行われ、平成三年度に『千葉県印旛郡栄町神社棟札集成』が刊行され、神社における建造物の造営に関わる棟札等の銘文が収録されている。今回の調査は平成四年度および五年年度の二か年にわたる悉皆調査で、銘文について細大漏れなく収集につとめたが、今後の補足調査において新たに発見されるものもあると考えられる。

この集成は、現在知られる限りで寺院の修造に関わる銘文を収録したが、今回の調査では神社の新たな銘文も発見されている。今後調査の完了した時点において、未収録の銘文の集成を行って完全を期したい。

今回の調査で発見された昭和以前の銘文は、現時点において一四一点で、その内訳は寺院一〇三点、神社四〇点となっていて、前回の神社の分一五八点と合わせると社寺全体で三〇一点である。

いずれにしても、一つの町においてこの点数が多いのか或いは少ないのか、まだ県内のみならず全国的にも一つの市町村単位での悉皆調査の例がほとんどないため確かなことは言えないが、平均的な数値であると見られ、他の多くの市町村においてもこの程度の密度で存在していると考えられる。

棟札調査の意義や棟札の時代分類、材質や形状、記載内容等については、神社棟札集成において全体的な傾向が示されている。寺院棟札についてもほぼ同様であるため、別な視点からの事柄について記すこととしたい。

栄町の棟札集成は、社寺の建造物の造営や修理に関わるすべての墨書や刻銘などの銘文を対象とし、その意味では「金石文」の範疇に属している。ちなみに、金石文は本来金工品に記された文字、石造物に刻まれた文字をいうが、広義には木や瓦製品、織物・布製品、画像・経巻類などに記された銘文の総称である。

棟札は建築工事の時に、その建物の永遠長久や地域住民の平穩無事などの願文とともに、工事の内容や年月日のほか工事に関わった人々の名を記した木の札で、その建物の建立年代や修理の年代を知る直接資料である。棟札を第一次的な資料とすれば、ただ単に修理の内容や寄進者・工匠を記した銘札もこれに次ぐ貴重な資料である。神社の棟札は多くの場合、本殿内部に収蔵されているのに対し、寺院の棟札は小屋裏に取り付けられていることが殆どである。これに対し、銘札は建物の外部などの人目に付く場所に取り付けられていることが多い。町内寺院銘文の特色としては、純粹な棟札やこれに準じた銘札が少なく寄進者を列記した銘札がかなり多いことが指摘できる。

北辺田の蓮常寺鬼子母神堂棟木銘には、紀年と工匠名とともに、敵を負かす呪い「ドーマン」と、魔神をも食べてしまう呪い「セーマン」の呪符が付される寺院銘文らしさが表われている。神社でも安食の川崎神社と西の稲荷神社の安永棟札には「セーマン」の呪符が付されているが、江戸時代は神社が寺院の管轄下にある神仏混交時代で、棟札に本地仏の梵字を記すことと本質的には変わらないことであるのかも知れない。ただ、両社とも安食の正徳寺が別当寺であったから、この呪符は当時の正徳寺廣順の流儀に則っていたのであろう。

町内の寺院においては、堂宇の造立に関わった大工が知られる例は神社に比べると極めて少ないが、東光院（麻生）の寛文二年（一六七二）再建時の前田清大夫、浄正寺本堂（四箇）の宝暦七年（一七五七）再建時の二宮和泉大夫が古い事例である。前田清大夫の居所は明らかでないが、二宮和泉大夫は現在

平成六年三月三十一日

栄町史調査報告書第2集

千葉県印旛郡栄町寺院棟札集成

編集・発行 栄町史編さん委員会・千葉県印旛郡栄町

〒二七〇一一五 千葉県印旛郡栄町安食台一丁目二番

TEL 〇四七六(九五)一一一一

印刷 株式会社 集 賢 舎

〒二六六 千葉県千葉市緑区古市場四七四の二六五